

桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。
どなたでもご参加いただけます。
それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

@web

第71回

2022年
9月10日(土)
15:00 ~ 17:00
ルームオープン: 14:40

Zoomにて開催! 参加無料

★メールでのお申し込みが必要です。

Zoomの参加URL(ルーム番号とパスワード)をお送りします。
※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。

ウクライナ侵攻を考える2



『チェマダン特別号

——ウクライナ侵攻とロシアの現在』について 報告者: 伊藤 愉

『チェマダン特別号——ウクライナ侵攻とロシアの現在』は、2022年2月24日のロシア軍によるウクライナ侵攻を受け、およそ7年ぶりに刊行しました*。巻頭言にあるように、侵攻開始以後、日本国内においても、様々な情報が膨大に生み出され、そして消費されてきています。人文学の役割が、大きなイメージを前に、いちど立ち止まり、思考することだとしたら、本特別号に掲載された文章は、そのための素材として位置付けられます。編集にあたっては、一面的な「イデオロギー」を標榜するのではなく、あくまでもロシアの(複数の)文化を捉え直すこと、その複雑性を文字としてとどめ、一つの記録として残していくことを目的としました。本号刊行に至るまでの経緯と意図を共有し、誌面構成の概略を紹介します。

*https://chemodan.jp/chemodan_sp_2022.pdf

開戦からの半年——支持率、出国、弾圧

報告者: 奈倉 有里

ウクライナ侵攻の開始から半年が経過しました。開戦当初の反戦運動はわずか数週間で抑え込まれ、その後も弾圧の続くロシア国内の状況は次第に見えづらくなっています。今回は『チェマダン』特別号で扱った「統計(支持率が高いという統計は本当なのか)」「国外移住の波(ソ連時代の亡命の波に匹敵するほどの人口流出とドイツなどにおけるロシア人社会の形成)」「国内の弾圧(言論弾圧、逮捕、解雇など)」という三つの問題点を中心に据え、五月以降の動きや文化人——ドイツに逃れたリュドミラ・ウリツカヤ(作家)、「モスクワのこだま」で政治コメンテーターをしていたエカテリーナ・シュリマン(政治学者)、国内での活動を続けるユーリー・シェフチューク(ロックグループDDTリーダー)、ウクライナからブルガリアに逃れたロシア語作家オリガ・グレンニク(絵本作家)らの声を追いながら、さまざまな状況におかれたロシアとウクライナの人々の現状と課題について考えます。

ロシア文化というイデオロギー

報告者: 八木 君人

『チェマダン』特別号では「『文化』のナショナリティに関する覚書」という記事を寄せました。それはロシア軍のウクライナ侵攻を機に欧米を中心に起こった「ロシア文化」の「キャンセル」から、「文化」を国家や特定のナショナリティに属させることについて考えたものでした。今回は、そのなかでも言及したような、国家イデオロギーとして機能してしまう「ロシア文化」あるいは「ロシア世界」について、記事ではあまり触れられなかった文化政策の観点を含めてもう少し踏み込んで報告し、「ロシア文化」にいかに関与していくべきか等、みなさんと話し合えればと思います。

●伊藤 愉(いとう まさる)

明治大学文学部教員。専門はロシア演劇、ロシア・アヴァンギャルド/ソヴィエト・アヴァンギャルド。

●奈倉 有里(なぐら ゆり)

専門はロシア詩、現代ロシア文学研究。早稲田大学ほか非常勤講師。ミハイル・シーキン、リュドミラ・ウリツカヤ、サーシャ・フィリペンコなどを翻訳しています。

●八木 君人(やぎ なおと)

早稲田大学文学部教員。専門はロシア・フォルマリズム、帝政ロシア・アヴァンギャルド/ソヴィエト・アヴァンギャルド。